

# 公民館まつり

## 子どもから大人まで楽しめる

中央公民館 文化会館

3月9(土)10(日)

「未来に夢を うるおいを!!」をテーマに、第18回公民館まつりが3月9日(土)・10日(日)に中央公民館・文化会館で開催される。主催は教育委員会・公民館まつり実行委員会。このまつりは、公民館講座から生まれ、グループなど、公民館を学習の場として活動成果を発表するイベントです。子どもから大人まで楽しめる催し物がたくさんありますので、ご家族でお出かけください。



去年の展示・洋裁コーナー

### 「未来に夢をうるおいを!!」テーマに

▼展示催し物：別表のとおり  
▼料理の即売：軽食、ケーキ、クッキー、五目ごはん、おこわ、ちらし寿司、赤飯、酒まんじゅう、梅シユース、コーヒ、和菓子など  
▼手工芸の即売：手芸小物、ステンドグラス、袋物、ブローチ、籐工芸作品など  
また会場では、県立中央農業高校のみなさんによるソーサージュ作りをはじめ、さまざまな体験コーナーも用意しています。

#### 催し物

内容	時間	会場
囲碁・将棋自由対局	午前10時～午後4時	中央公民館
ヨガ公開練習	午前10時30分～11時30分	文化会館 (小ホール) (120サロン)
オカリナ演奏	午前11時～正午	
詩吟の独吟・合吟	午後1時～2時	
着付け公開練習	午後1時～3時	
女声コーラス	午後2時30分～3時30分	

  

内容	時間	会場
お茶席	午前10時～午後3時	中央公民館
百人一首公開練習	午前10時～午後3時	文化会館 (小ホール) (120サロン)
ギター演奏	午前10時～10時30分	
ハーモニカ演奏	午前11時～正午	
フルート演奏	午後1時30分～2時30分	
気功公開練習	午後1時30分～2時30分	

#### 展示発表

9日(土) 午前10時～午後4時  
10日(日) 午前10時～午後3時

内容	会場
書道、短歌、文集、鎌倉彫、仏像、七宝焼、手芸、洋裁、パッチワーク、籐工芸、表装、天体写真、トールペイント、活動報告(山歩き、ガールスカウト)、和裁、アートフラワー、粘土クラフト、植物観察、ポールペン字、手描き染め、刺しゅう、ステンドグラス、篆刻、水墨画、切り絵、ピースほか	中央公民館
書道、日本画、水彩画、油絵、パステル画、デッサン、植物画、色鉛筆画、生け花、写真、活動報告(語学、心理学、日本語指導者ボランティア、消費生活)、版画、絵手紙ほか	文化会館

#### 体験コーナー

9日(土)、10日(日)  
▼文化会館1階 ▼ソーサージュづくり ▼絵手紙づくり ▼スタンプラリー(受付) ▼ピッチングゲーム ▼わたあめ。

### 思いつくままに

街頭募金や交通安全、ポイ捨て禁止、防犯明るい社会づくりのキャンペーン等に、ボランティア団体の方々と年間を通じて参加しますが、その都度いろいろなことを感じます。



### ボランティア 悲喜こもごも

昨年末の「たすけあい街頭募金」の時のことです。金髪の若者3人がやってきて「これしかねーんだけど、まあ気持ちだからよ」と、ちよっとテレながら百円玉三つと十円を入れ

てくれました。寒い季節でも自然と心が温かくなってきました。

また、知り合いの人が急ぎ足でやってきて目が合う。「まずい人に会ってしまったものだ」という顔をして千円札を入れてくれる。「まずい」は私がそう思っただけでも知れませんが、さらに、知らない人から「市長さんですね、苦勞様です。頑張ってください」と、声だけで一円も入れてくれる心も温まります。

一方、声をかけてもまったく無視か、あるいは「なんだ、パンフレットだけか」という顔で通り過ぎてから、配布物の袋の中に、果物や草花の種が入っているのが分かったと戻ってきて、一袋だけでもらっていくならまだしも、いくつも催促していくのです。中年の女性に多いような気がするのですが...。商売でやっているわけではないので、と言いたくなることもままあるのが実状です。

ボランティアは生きた勉強をさせてくれる学校です。

海老名市長 亀井 英一

## 「秋葉山古墳群の時代」

### 考古学講座 講演会と成果スライド上映

#### 講師に荻谷俊介氏



生涯学習課(内684)へ。※土・日曜日を除く。

教育委員会では、俳優として活躍の傍ら、考古学の研究をされ、特に古墳に造詣が深い荻谷俊介氏「写真」を講師に迎えて、「秋葉山古墳群の時代」をテーマに講演会を開催します。併せて、平成9年～12年度に発掘調査を行い、東日本最古級の古墳群であることが判明した秋葉山古墳群について、発掘調査の成果をスライドで分かりやすく紹介します。

▽日時 3月21日(祝) ▼秋葉山古墳群発掘調査成果報告：午後

#### お知らせ

毎月1日号の「海老名むかしばなし」コーナーは、4月以降不定期の掲載となります。



秋葉山古墳群から出土した円筒形土製品

## 海老名むかしばなし

めわずかに「大貫」の二字が読める程度である。赤坂の不動尊より北北西約二百五十メートルの処の三差路に、富士噴火時の砂を集めたという富士塚がある。その上の庚申塔に「文化十三年(一八一六)九月吉日、柏ヶ谷村講中」とある。南ふしきハ、多のしま、加満から道、左面に「西阿つぎ大山、東江戸道」、それと大貫姓五名、土屋姓一名の名が刻まれていて、念の入った道標を兼ねている。

ここから西方、峰坂という坂を下り切った丁字路右角に、双体道祖神塔(寛政元年(一七八九)七月、南無阿弥陀仏塔)文政八年(一八二五)正月、堅牢神塔(安政四年(一八五七)八月、庚申塔)万延元年(一八六〇)十一月、風化激しい銘不詳の塔の、五基の石仏がある。ここでは阿弥陀仏塔が光彩を放っている。一般に名号塔といわれるもので、市内には国分と下今泉にあるもののみと思う。名号の右に、「一遍上人五十二代他阿」と彫ってあった痕跡が僅かに見える。「他阿」は「雲隨」といい、相模原市の時宗大本山当麻山無量光寺の名僧で、当時一遍の遊行の遺法を守り民衆に念仏修行を説いて歩いた。この碑があることで、下村講中の人たちが如何にその教えを信奉していたかがわかるのである。

この右南面する庚申塔には、右面に「富士三十七度、右江戸道」、左面に年記と「左ほしのや」、台石に大貫一族八名・土屋姓一名の氏名が刻まれている。「富士三十七度」とは、富士講を組織し、万延元年までに三十七回富士詣りをしたことを示すもので、個人ではないだけに偉なるかな、である。「堅牢神塔」は、一般には地神様と呼ばれている。「双体道祖神塔」は、男女の道の神が浮き彫りにされている塔のことである。



(左から) 坏・木魚・数珠・不動講月並記帳・不動尊像軸

最後に、「回り持ち不動講」に使われる仏具についてであるが、講中に伝わる「宝曆十一歳(一七六一)辛巳十月良辰」とある箱の中には、百個玉の大数珠と小數珠、「天保七歳十二月柏ヶ谷下村不動講」と記す木魚とその布団

(池田 武治)

電話で海老名の昔話が聞けます

3/11まで 第270話 尻尾で油を盗んだ狐  
3/12・4/11 第271話 達磨移しの馬鹿面踊り

233・333333